

きぼう
×
ていぼう
×
うまいぼう

～“おかし”な堤防プロジェクト！～

茨城大学 地方政治論ゼミナール

茨城大学 地方政治論ゼミナール

宮川智子

佐藤雄基

高橋なつき

三浦寿幸

下田愛子





0.はじめに

「まちづくり」
とはなんだろう？



0.はじめに

首都直下地震

東海地震

南海トラフ地震

→地震大国日本

高い確率で起こると言われている
大地震



0.はじめに

「観光のためのまちづくり」だけを
考えるフェーズは終わった

利益だけでなく、
「地域のチカラ」を生み出していくのが
まちづくりではないだろうか



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



1.地域・インフラ選定

・対象地域

茨城県常総市

・対象インフラ

常総市鬼怒川の堤防



1.地域・インフラ選定

茨城県常総市

江戸時代までは寒村



江戸時代末期

鬼怒川の河川水運によって、

周辺地域の

中核都市として発展。





1.地域・インフラ選定

「鬼怒川の水は尽きるとも、
その富は尽くること無し」

と称される。



常総市と鬼怒川は、
歴史的に見ても重要な関係性あり



1.地域・インフラ選定

2015年9月10日 関東・東北豪雨
鬼怒川の数カ所からの越水・漏水
堤防1カ所が決壊、大きな被害を受ける

死者2名、負傷者40名以上
全壊50件、大規模半壊914件、
半壊2,773件、
床下浸水2,264件
農業被害額75.5億円
中小企業関係被害額169.7億円



1.地域・インフラ選定

- ・常総市は鬼怒川とともに常総市を形成する重要な河川である。→かつては「

強だけでなく、
「強く優しい堤防」へ！

- ・決壊した堤防の復旧工事が完成



1.地域・インフラ選定

・堤防を利用する意義

→この堤防が決壊するほどの水害であったという認識を生み出す

災害を風化させない



1.地域・インフラ選定

堤防というインフラを利用した
インフラツーリズムで
「水辺の賑わい」を生む



「水辺の賑わい」で地域のつながりを生む



観光 × **防災** 先進都市へ

これを牽引するのが“常総市”である。



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



2.現状分析

[機会](Opportunity)

- ・水害がメディアを通して多くの人に伝えられたこと
- ・水害を通して情報伝達など様々な問題点が浮き彫りになったこと

[脅威](Threat)

- ・時間とともに、水害が忘れられてしまうこと
- ・水害の再発(早急な防災の推進の必要性)

SWOT 分析

[強み](Strength)

- ・東京からのアクセスが良い
- ・新たな堤防が作られたこと
- ・災害の経験

[弱み](Weakness)

- ・水害により人口が減少した



2.現状分析

2017年7月31日
常総市フィールドワーク

常総市役所を訪問

神達市長にお会いしてきました。





2.現状分析

防災も参加しないと
始まらないし、楽しく
ないと続かない
観光と防災のコラボ

水害にあった常
総というイメージ
を払拭していきたい



常総市を
「防災先進都市」
にする！

「防災先進都市」
とは**絆**である！
様々な絆の形…
・地域の絆
・行政と住民との絆
など…

「絆」のまちづくりを
していきたい

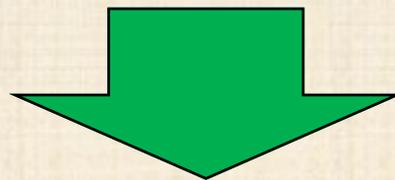


2.現状分析

また…

「常総市復興計画」の“復興の基本理念”

『川と向き合い、川とともに育ち、「住みたい」を大切にする常総』



ミズベリングの考えにつながる部分がある

※ミズベリングとは…街における川や水辺の魅力や価値、賢い利用、各主体の関わり方等について考え、水辺とまちの未来を創造していくための取り組みを推進していくこと



2.現状分析

近年の研究

災害時→平時からの結びつきで生まれた

ソーシャルキャピタルが災害時の避難やその後の復興に大きな力を示すようになってくる

レジリエンス(回復力)の醸成

※ソーシャルキャピタル…人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

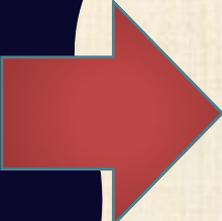


2.現状分析

レジリエンスとは？

D.P.アルドリッチが2015年に以下のように定義

「連携した働きかけと協力し合って行う活動を通じて、災害などの危機を切り抜け、効果的で効率的な復興に取り組むための地域が持つ潜在能力」



地域の持つ結びつきの力が防災、復興に！



2.現状分析

結びつきの力が本当に防災や復興につながるの？

➔ D.P.アルドリッチは著書の中でこのような事例を紹介している

阪神淡路大震災の時に**普段から市民活動が盛ん**だった真野地区においては地震火災を地域の人々がバケツリレーで消火活動を行い、延焼を防いだ。

真野地区の住民はその後NPOなどの組織を立ち上げて行政に自分たちの声を発信し、復興活動に取り組んでいった。

D.P.アルドリッチ（2015）『災害復興におけるソーシャル・キャピタルの役割とは何か—地域再建とレジリエンスの構築—』 ミネルヴァ書房より抜粋



2.現状分析

災害に対する脆弱性、
人口減少、災害の風化

「防災先進都市」を目指す
という常総市のビジョン

「絆」を生むために、
「水辺の賑わい」を降り戻した
い



2.現状分析

現状分析から考えたプランの方向性

- ①堤防を利用したインフラツーリズムで、
地域内外の**交流促進&経済活性化**

「**水辺の賑わい**」を現代に取り戻すことで、
地域のつながり(絆)を生む

→**ミズベリングの考え**



2.現状分析

現状分析から考えたプランの方向性

- ②「水辺の賑わい」によってできた
つながり(絆)は災害時に大きな役割を
果たす→災害時の共助の力

- ③**観光** × **防災**のインフラツーリズムで
常総市を「**防災先進都市**」へ！



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法

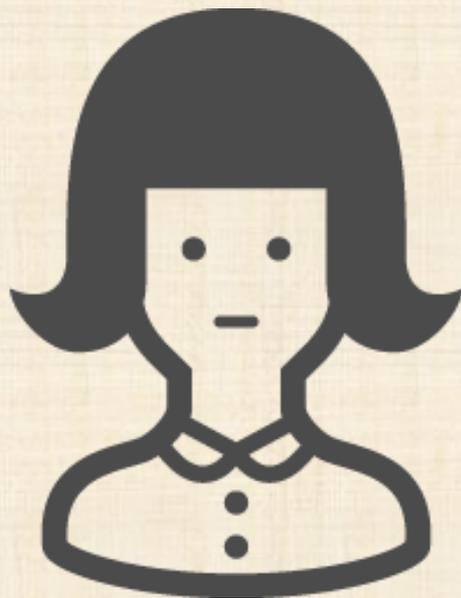


6.まとめ



3.ターゲット選定

メインターゲット



地域の
子ども
たち



3.ターゲット選定

→Why?

- ①未来を担う子どもたちへの防災教育
- ②「水辺の賑わい」のアクターに
- ③「学校」という地域コミュニティの
主体であるから

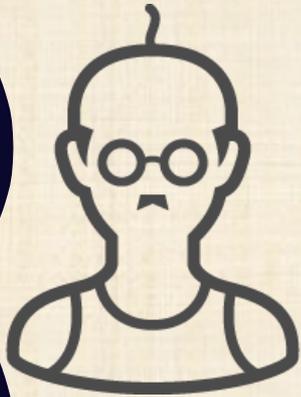


3.ターゲット選定

第2ターゲット

地域の
子どもたち
の親

地域の
人々





3.ターゲット選定

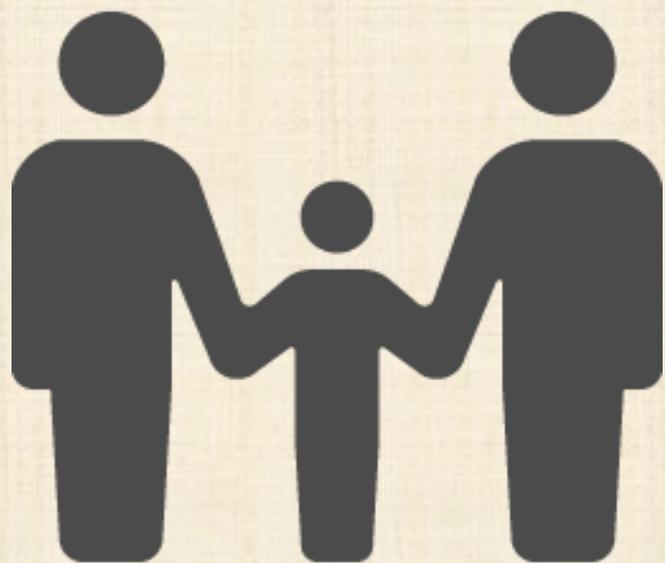
→Why?

- ①地域のつながりを作る
(子ども達がきっかけを作り、
大人が実際に醸成していく)
- ②「水辺の賑わい」のアクターに



3.ターゲット選定

第3ターゲット



観光客
(親子)



3.ターゲット選定

→Why?

- ①地域の子ども達だけでなく、その輪を地域外にも広げる
- ②子どもが来たくなるようなイベントを作る、楽しむと同時に防災教育にもなる
- ③地域にお金を落としてもらう



3.ターゲット選定

地域のつながりの醸成

「水辺の賑わい」の実現

交流促進&経済活性化





1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



4.プラン内容

堤防（インフラ）
の利用



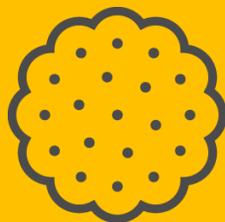
観光



防災



4.プラン内容



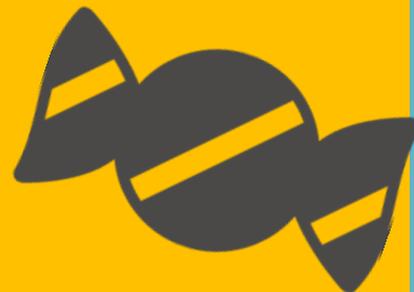
提案



プラン①



『うまい棒堤防プロジェクト！』





4.プラン内容

常総市が全

会社



みなさんご存知
「うまい棒」の
製造を行っている会社



4.プラン内容

プラン①

「“おかしな”堤防プロジェクト！」

堤防を利用した遊び…土手滑り

それを全国どこにもない
日本一の土手滑りに！



このダンボールを…

全部うまい棒に！！



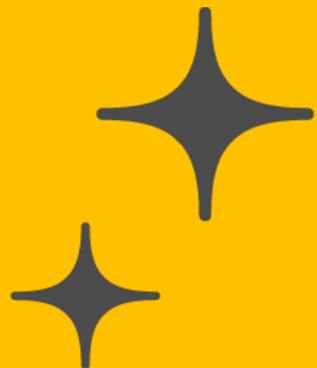


4.プラン内容

- ・作成は市内の小・中学生＋公募
- ・コストはほぼダンボールのみ
- ・リスカ(地元企業)のPRに
- ・土手に何本もの**巨大うまい棒が並ぶ光景は
圧巻！！**
- ・SNS映えする
(写真を撮って投稿したくなる)



4.プラン内容



提案 プラン②

『スカイランタン』





4.プラン内容

災害のあった都市で多く行われている
「灯籠流し」。

これを一味違う形にして、
常総市の新たな観光の目玉に！

その方法とは…





4.プラン内容

流すのではなく
空に飛ばそう！！



4.プラン内容

「スカイランタン」

実際は火を用いて熱気球の原理で飛ばす。

→安全面を配慮し、浮力はヘリウムガス、
明かりはLED、重りとひもをつけて一定の高さ以上
飛ばないようにする。

夜空に浮かぶ無数のランタンの光景は**圧巻！！**



4.プラン内容

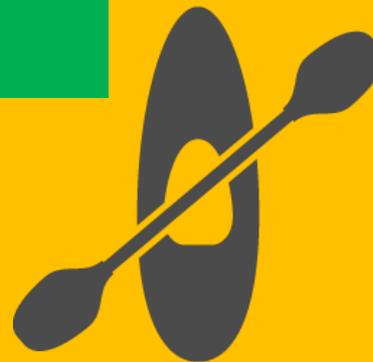
鎮魂・災害を思い出す機会に！

地域の人が集まる機会に！

ここにしかない風景



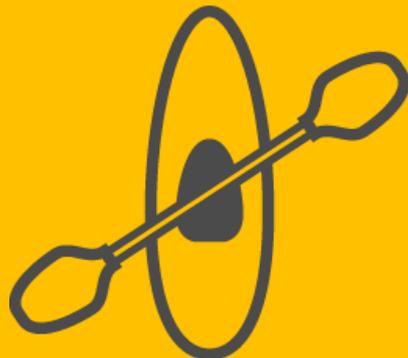
4.プラン内容



提案

プラン③

『Eボート体験』





4.プラン内容

Eボートとは？

ゴム製の手漕ぎボートで、
誰でも(everybody)
簡単に(easy)
楽しむ(enjoy)
交流する(exchange)
エコライフ(eco-life)
環境(environment)
緊急(emergency)
等の頭文字から取ったもの。





4.プラン内容

「E」の中の「Emergency」には防災という意味合いも入っている。



Eボートは簡単に組み立てられる
→水害の時にも活躍する
(2011年新潟・福島豪雨の際、実際に救助艇として利用された)。

2019年茨城国体で、Eボート競技が鬼怒川で開催される。





4.プラン内容

防災学習

水辺の賑わい

災害時利用

これをEボート体験によって実現！！



4.プラン内容



http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/00093261.jpg

歴史的背景として…

鬼怒川流域は江戸時代において東北諸藩と江戸を結ぶ水路として重要な役割

江戸で消費される米の **3分の2** (奥州米)をはじめとして、東北諸藩からの物産を運搬していた。

→昔は重要な水路として幕府を支えていたという**歴史、文化**が鬼怒川にはある。加えて鬼怒川は各地と江戸を「**むすびつけていた**」存在でもあった。



4.プラン内容

鬼怒川でEボート体験を行うことによって、かつての舟による水運をイメージ



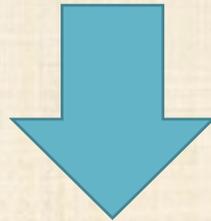
歴史、文化のような古い事柄と
技術(Eボート)という新しい事柄の融合

古き良き文化、歴史を大切にし、
新しい技術と結びつけ、未来へと
進んでいく常総市



4.プラン内容

かつては水運によって、
各地と常総市のあった地域はつながっていた



Eボートによってかつての水運を連想させ、
常総市が**他地域との結びつきを重視していく**
というイメージを発信することができる



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



5.PR方法

メインターゲット
&
第2ターゲットに向けて

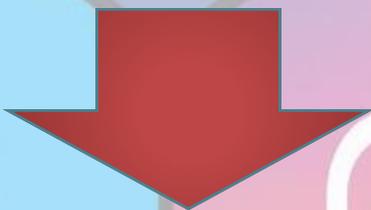
- ・学校でビラを配る

→学校で配ることにより、
メインターゲットである**地域のこどもたち**と、第
2ターゲットである**親**が必ず目にするようになる
ので、効果的な宣伝が可能！！



5.PR方法

第3ターゲット「親子の観光客」に向けて…



「ハッシュタグ」
を利用して
情報を拡散



5.PR方法

「ハッシュタグ」とは？

検索しやすくするため、
SNSに投稿する際に「#xxx」と入れるタグ

→ハッシュタグをつけて投稿してもらうことにより、同じ話題で盛り上がりやすくなったり、投稿を他の人に見てもらいやすくなる



5.PR方法

ハッシュタグ
「#常総イズム」
を提案

LINE



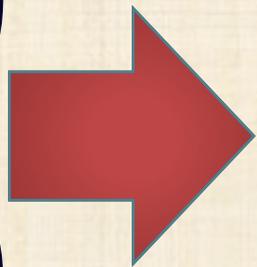


5.PR方法

このハッシュタグをつけて投稿してもらおう
→常総の魅力を、より見つけやすい形で拡散

促進するために…

「**#常総イズム**」をつけた投稿写真に、賞を進呈
常総市の特産品、非売品うまい棒など



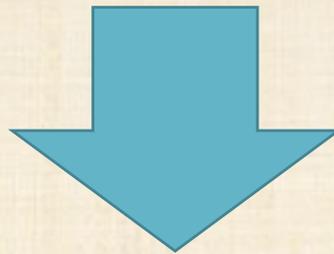
SNSの拡散能力を利用



5.PR方法

当ゼミでは茨城県小美玉市等と連携し、観光PR動画を作成した経験あり

その経験、技術を活かし、PR動画を作成することで常総市を全国にアピール



動画によるPRを展開！



1.地域・インフラ選定



2.現状分析



3.ターゲット選定



4.プラン内容



5.PR方法



6.まとめ



6.まとめ

これらのプランについて…

神
「こ
と

常総市に 企画書を提出





6.まとめ

うまい棒を製造する リスカ株式会社

うまい棒を利用した観光プランについて…
「どの提案も話題性や自然災害を忘れないなど、
意味のある具体案であると思う。
地域に貢献できることですので、実施の際は**前向きに
検討**させていただきたいと思っています。」

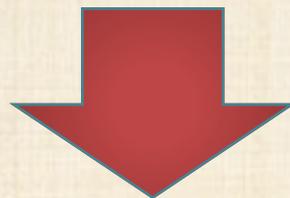
との**前向きな回答**をいただきました！！



6.まとめ

【意義】

従来のただまちづくりをするだけの観光とは異なる



観光を目指すだけでなく、

- ・地域の結びつきにより防災の力を育む
- ・防災と観光の両立

という点で新規性・意義がある。



6.まとめ

【期待される効果】

- ・ **地域の結びつき**を生み出す。
 - ・ 平時からの結びつきで生まれたソーシャルキャピタルが、災害時の避難やその後の復興に大きな力を示すようになってくる。
- **レジリエンス(回復力)の醸成**



6.まとめ

ハード面の復興の象徴である「堤防」

ソフト面の復興の象徴

「結びつき」や「地域のレジリエンス」



↓ 結びつける



新たな復興の形、

最新鋭の融和の復興の実現



6.まとめ

言い換えるなら・・・

ハードのインフラである「堤防」

とソフトのインフラである

「人々のつながり」が融合した真のイ

ンフラツーンリズム



6.まとめ

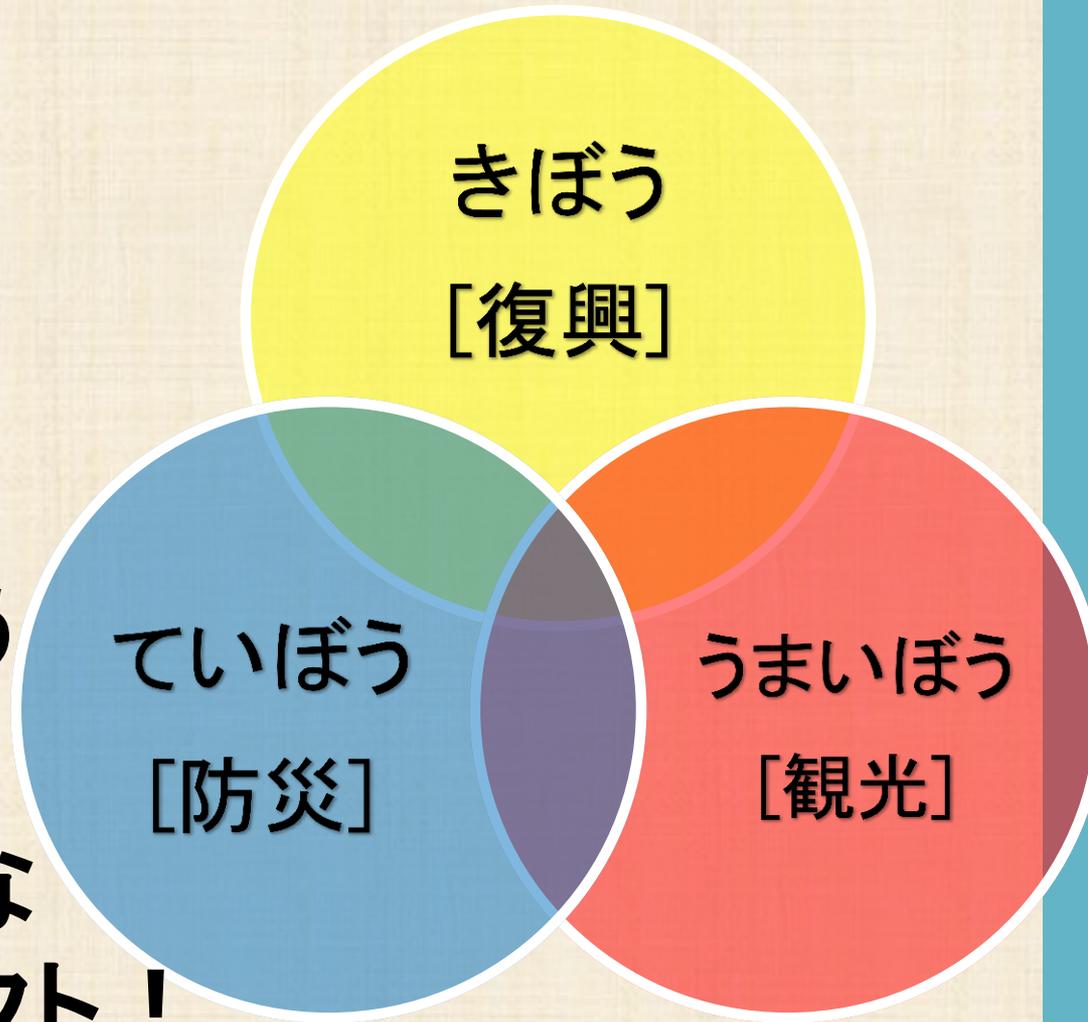


防災 × 観光

**インフラツーリズムで
復興の好循環を生む**

きぼう
×
ていぼう
×
うまいぼう

“おかし”な
堤防プロジェクト！



3つの“ぼう”で

“観光 × 防災 インフラツーリズム”防災先進都市へ！

〈参考文献〉

いきいき茨城ゆめ国体ホームページ「Eボート」〈<https://www.ibarakikokutai2019.jp/kokutai/games/eboat>〉

和泉浩(2015)「地域のレジリエンスにおけるソーシャル・キャピタルと記憶—東日本大震災後の地域コミュニティについての議論をもとに—」『秋田大学教育文化学部研究紀要』70巻、9-20頁

厚生労働省「ソーシャルキャピタル」〈<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000011w0l-att/2r98520000011w95.pdf>〉

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 調査第一課(2015)「ミズベリング・プロジェクトの取り組みについて」〈http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000633484.pdf〉

〈<https://www.ibarakikokutai2019.jp/kokutai/games/eboat>〉

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所ホームページ

http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/shimodate_know040.html(2017年8月19日閲覧)

常総市(2015)「平成27年9月関東・東北豪雨による常総市被災状況」

〈<http://www.city.joso.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/13/dai1kai-higaijyoukyou.pdf>〉

常総市ホームページ「常総市復興計画の内容が確定しました」

〈<http://www.city.joso.lg.jp/jumin/anzen/kinkyuusaigaijouhou/hukoujyouhou/1459904038612.html>〉

常総市(2016)「常総市復興計画」

〈<http://www.city.joso.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/13/28.4.21.pdf>〉

D.P.アルドリッチ(2014)「ソーシャル・キャピタルと災害」『ESTRELA』246号、2-7頁

同上(2015)『災害復興におけるソーシャルキャピタルの役割とは何か 地域再建とレジリエンスの構築』ミネルヴァ書房

内閣官房国土強靱化推進室(2014)『国土強靱化とは?』

結城俊哉(2014)「被災当事者の「生活経験の語り」に関するレジリエンスの構成要件の検討~東日本大地震の被災者S氏の「語り」の記録を手がかりとして~」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2巻、95-113頁

同上(2017)「3.11東日本大震災を経験した障害者と支援実践の経験から学ぶ「コミュニティ再建のレジリエンス」とは何か—レジリエント・コミュニティ構想の萌芽として山元町『工房地球村』の実践から—」『コミュニティ福祉学部紀要』19号、65-86頁

渡邊聡(2016)「被災地域における復興プロセスとソーシャル・キャピタルの効果—東日本大震災後の岩手県を事例に—」『鈴鹿大学紀要Campana』22巻、93-106頁